## 【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

## 達成度(評価)

- **KL** ( **Frm**) A: +分達成できている B: おおむね達成できている C: やや不十分である D: 不十分である

学校名 前年度

評価結果の概要

- ・今年度は、後期課程の新学習指導要領の完全実施となる。さらなる学力向上を目指し、9年間を見通した授業改善に取り組んでいきたい。
- ・教職員の働き方改革については、少しずつ進んでいる。次年度も継続して働き方改革を進めていきたい。

大町町立小中一貫校大町ひじり学園

2 学校教育目標

「大磨 智誠」 〜知・徳・体を大きく磨き、人格の完成を目指す〜

「夢に向かって絆・全力・挑戦」 ~夢と誇りをもち、社会をたくましく生き抜く児童生徒の育成~

3 本年度の重点目標

①主体的に学ぼうとする態度を育てる学習指導の工夫を図る。

②キャリア教育の充実を図る。

重点取組内容・成果技	日标			5 最終評価			
共通評価項目	重点取組				最終評価		学校関係者評価
		成果指標	具体的取組	達成度		AT Inc	
評価項目	取組内容 ●全職員による共通理解と共通実践	(数値目標)	・共通実践についての共通理解の場をも	(評価)	実施結果 ・学力向上対策のマイプランを達成したと回答し	評価	意見や提言
●学力の向上	▼王順貝による大選咩牌と大選失成	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上にする。	・共通失政についての共通理解の場をも も、意識化を図る ・「授業づくりのステップ1・2・3」を活用 し、授業づくりへの意識向上と授業のレ ベルアップを目指す。	_	・子川市上対東のマイフランを達成したと回答した職員は7896だった。 ・県の学習状況調査の結果を全職員で分析し、課題と成果の共通理解と今後の共通実践の確認をした。 ・授業作りのステップ123を活用(セルフチェックや授業研究会で使用)することで、授業作りの意識は高まってきている。さらなる質の向上に向かって努力したい。	В	・よい学校づくりがされていると思う
		○授業の中で学習用パソコンを活用したことができたと感じる児童を70%、生徒を90%以上にする。	・学習規律について、共通理解の場を設定し、「学習のルール」に準じた指導をする。 ・パソコン活用の実践交流の場を設ける。 アンケート、研修会の実施	A	・・・接乗の中で学習用パソコンを活用することができた」と肯定的に回答した見童は、94.7%、生徒は88.1%で、小学部では目積の数値を選成することができた。前半、場入できているかった低学年の学級でもハソコン導入ができたことで大幅に上昇した。中学部の活用率が下がり、目標に達しなかったのは、アンケートの美施時期によってパソコンの使用頻度が変わることが考えられる。また、「活用」という言葉を高いレベルじ、word、power point使用で捉え回答したと考えるも、貧間項目を検討し、内容を絞って聞く必要があると考える。	A	・パソコンを活用する、使用方法にを持っている子が多くいる。より高 使い方(PPなどの使い方、チラシの り方等)に興味をもち、質問してくれ 子もいる。
		○「宿題や課題、あすなろワークを忘れないでしている」と肯定的に回答している」と肯定的に回答している児童生徒を80%以上にする。	・「学習のルール」に準じた家庭学習時間の指導をする。	A	・「宿題や課題、あすなろワークを忘れずにできた」と肯定的に回答する児童生徒は、87.1%で、目標を達成することができた。昨年度の実態から低めの目標設定としていたが、肯定的な回答が昨年度より7%程度上昇した。しかし、家庭学習の時間の面からみると、学年別に設定した目標時間に進していな、児童生徒の別合が高かった。また、特定の児童生徒が取り組めていない状況はあまり変わっておらず、今後、宿題・課題の出し方を工夫することや、目標時間の設定の見直しが必要と思われる。	A	・宿題を完遂しようとする意志があが多い。 ・・5・6年生の「英語」については、ち と取り組めていますか?
		〇授業改善リーフレットと授業評価アンケートを使って自らの授業改善をしている教師を100%にする。	・授業改善リーフレットを活用した授業 チェック ・授業評価アンケートの実施 ・校内研究での授業研究会・研修	A	・校内研究の時間に、全職員で「授業改善セット」を使って授業改善に取り組むことができた。また、児童生徒に実施した「授業所価アンケート」をもとに自身の授業を振り返り、必善につなげることができた。全職員が取り組んだ1人1レポートの実践から情報を共有することができた。今後も、授業改善セットや授業評価アンケートをもとに授業を振り返ること、職員間での情報交流をすることで、授業の見直し・改善をしていきたい。	A	
●心の教育		〇命の大切さや相手の立場を考えて思いやることができるようになったと言える 児童生徒80%以上	・生命尊重、思いやり等の道徳授業の実践 ・本物に触れる体験活動の取組 ・平和集会、人権集会の取組	A	・命や思いやりの大切を考えられている児童生徒は943%いる結果となり、中間評価を上回った。中間評価後も継続して命や思いやりの大切さを考える指導ができていたことが要因だと考えられる。次年度も引き続き、90%以上の児童生徒が命や思いやりの大切さを考えられる環境づくりを行っていきたい。	A	・よい学校づくりがされていると思うけがや食事をかるんじている子かい。命そのものは、もちろん、それにながる体の大切さも理解しているとと思う。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	〇いじめの把握に資する学校全体の取組を月1回以上実施。連絡会を週1回実施する中に、いじめや問題行動にかかわる事業を報告する時間を設定する。	・Q-Uの実施、心のアンケート(毎月) 教育相談部会(月末火曜日6時間目) 小中合同生徒指導・教育相談連絡会 (年3回)	В	・具体的取り組みを1年間継続して、実施することができた。また、学校全体で問題行動発生時は、情報共有を行った。 ・小中台同生徒指導・教育相談連絡会の頻度を増やし。義務教育学校としての仕組みを見直す必要がある。	В	・いじめが起こったとき、学校は被告、加害者の同席で話しています。 具体的取組とは? ・いつでも十分であると思わないで 組んでいただきたい。
●健康・体つくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力 の育成	●「健康に食事は大切である」と考える 児童生徒を、小学生95%、中学生95% を目指す。	・学級活動等において食育指導を推進 し、朝食の意義や食事の大切さについ て児童生徒だけでなく、必要に応じて家 庭に協力を呼びかける。	A	・「健康に食事は大切である」と考える児童生徒は、小中合わせて約98%であった。・5年生の家庭科の学習で食に関する指導を栄養教諭も共に行い、理解を深めた。・給食委員会で残食調査や給食センターの仕事を紹介することで、食への関心を高めることができた。	A	・よい学校づくりがされていると思う・外部の専門の指導者からの刺激けることができたのではと思う。・運動量の確保を。個に応じた体育授業の実践をしてほしい。・日曜日に昼食を食べずに遊んで子があまりにも多い。
	〇防災教育・安全教育の推進	〇学校内外での安全意識を高める。年間を通して、交通事故をOにする。 〇災害時において取るべき行動について正しく理解している児童生徒の割合を 90%以上にする。	・登校指導・各種訓練・危険箇所の点検 見回りを行い、その結果を集会等で指導 に生かす。 ・防災についての講話や体験を行い主 体的に行動する態度や支援者としての 育成を図る。		・各種訓練指導を発達の段階に応じて行った。自転車での交通事故が年度初めにあったが、交通マナーについて指導を行い、その後は事故は起きていない。 災害時において取るべき行動について正しく理解している児童は約95%であった。来年度も各種訓練を継続して実施する。	В	
●業務改善・教職員の働き 方改革の推進	<ul><li>●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減</li></ul>	<ul><li>●教育委員会規則に掲げる時間外在校 等時間の上限を遵守する。</li></ul>	・毎週水曜日午後は職員裁量時間として運用 ・定時退勤日(水・金)の設定 ・長期休業中の学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定	В	・月の超過勤務の平均時間は38.4時間→29.8時間と昨年度と比較して約9時間減少した。 ・月の超過勤務平均45時間を超えた人数は15名 ・5名と昨年度と比較して10名減った。 ・次年度もさらなる働き方改革を進めていく必要がある。	В	・夜遅くまで電気がついていて、先 の負担が心配。 ・PTA業務の簡素化、デジタル化。
本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
〇キャリア教育の推進	◎生徒が夢や誇りを持ち、社会をたくましく生き抜くための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした6年生児童、9年生生徒85%以上	・学期の始めや終わり、行事や活動後など計画的にキャリアパスポートに記述させる。	A	・学校評価アンケートにおいて、「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした6年生は88%、9年生は90%であった。目標数値を上回ることができたといえる。	A	・キャリア教育は、子どもたちの「学力向上」 教育」「健康・体作り」とも関連するが、先生: 努力されていると思う。 ・「夢に向かって絆・全力・挑戦」のキャリア 形骸化してはいないか。先生方の意識はあか?
							・町内のいろいろな職業の方にお話をして ことは、講師となる大人も子どもたちとの関 き、勉強になると思う。

## ●・・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望 ・学力向上については、研究主任を中心に、県の小中連携による学力向上推進地域指定事業により、「大町型授業」について共通理解をはかりながら、「授業改善セット」を使って授業改善に取り組むことができた。来年度は、さらに主体的な学習態度を育成し、学力向上と体力向上を図っていきたい。また、学習用パソコンの活用についても推進していきたい。
・コロナ感染症の対策を行い、児童生徒が夢や誇りをもてるよう体験的な行事や地域と連携した学習を行ってきた。「将来の夢や希望をもつ」「志をもつ」児童生徒を育成するため、大町町教育委員会と連携して5年生以上の志教育を進めていき